

グラミン・クリエイティブ・ハウス(旧超伝導システム科学研究センター)の歴史文化的価値



1. グラミン・クリエイティブ・ハウスの評価

ムハマド・ユヌス博士(グラミン銀行総裁、ノーベル平和賞受賞)が提唱するソーシャル・ビジネスを日本において普及・推進するため、福岡をアジアのソーシャル・ビジネスの拠点とする共同声明「ソーシャル・ビジネス ハブ・イン・アジア」を掲げる。そのソーシャル・ビジネスの拠点として、2011年に築79年の旧超伝導システム科学研究センターを改修され、グラミン・クリエイティブ・ハウス(以下G.C.H)として整備。またサグラダ・ファミリア主任彫刻家、外尾悦郎氏が外観監修を手がける。施設内には、福祉施設工房まるによる障害者アートの壁画が描かれ、福岡の障害者に夢を与えるアート作品となっている。

出典:九州大学広報室 Press Release 2010.11.18



障害者福祉施設・工房まるのアーティストによる壁画作品。



来日のムハマド・ユヌス博士と岡田昌治 教授。



2. 産業遺産としての評価

G.C.Hは、経済産業省による「近代化産業遺産群 続33」のうち、「九州大学工学部関連遺産」として選定されている5つの建築物のうちのひとつです。全33の選定分類のうち、「22. 質量ともに豊富な人材を供給し我が国の産業近代化を支えた技術者教育の歩みを物語る近代化産業遺産群」として、東京大学工学部1号館等とともにリストされており、我が国の近代化人材に貢献したことが認められている。

出典:経済産業省による「近代化産業遺産群 続33」



近代化産業遺産群 続33
33 Heritage Constellations of Industrial Modernization vol.2
~C21世紀産業遺産としての近代化人材の歩み~

3. 建築課長・倉田謙氏の功績と九州大学の近代建築物群の評価

1911年(明治44年)帝国大学が成立し、建築課長・倉田謙氏が赴任。1930年(大正19年)には、倉田課長の手により、本館および正門周辺の建築群が完成し、現在に続く景観が生まれた。キャンパスの建築計画は後任の渡部善一氏に引き継がれ、G.C.Hは1931年(昭和6年)に竣工。本館同様、曲面やスクランチタイルの使用により、大正から昭和初期の時代を反映したキャンパス景観を特徴づけている。九州大学の近代建築群は、百年の歴史と文化が詰まった社会的、都市的資源であること、各建築物が有形文化財としての価値を有する、国内でも稀な貴重な地区であると評価できる。

出典:「平成24年度 九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の調査」



九州大学旧工学部本館



応用物質科学化学機能教室



G.C.H(旧超伝導システム科学研究センター)

<構造強度に対する評価>

中性化はかぶり厚を超えて進行しているものの、圧縮強度は一定値以上ある。14.5N/mm²は、国土交通省が定める、13.5n/mm²を上回っている。

<年譜>

1911年(明治44年)九州帝国大学が成立し、箱崎キャンパスがオープン

1923年(大正12年)火災により元工学部本館が焼失される

1930年(大正14年)工学部本館が完成し、現在に続く景観が完成

1931年(昭和6年)工学部高周波電気及電子工学実験室(後の超伝導システム科学研究センター)が竣工

2009年(平成21年)工学部本館などとともに近代化産業遺産群 続33(経済産業省)に選定

2011年(平成23年)グラミンクリエイティブハウスとして再生

グラミン・クリエイティブ・ハウスの利活用イメージ

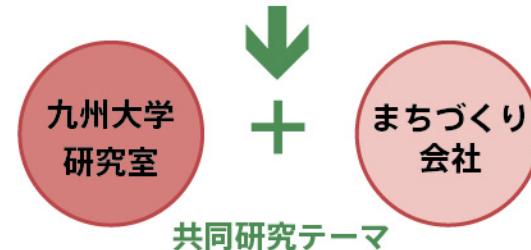
①福岡の都市戦略としての跡地活用において UDCとの共同研究機関。

世界の都市間競争が活発化する中で、都市戦略的に九大跡地を開発するための共同研究として行政、民間事業者との協議会を設立する。



②九州大学まちづくり研究室と地域まちづくり会社との 実践的な共同研究としてG.C.Hをモデルにスタート。

跡地の再開発における新旧地域統合を目指したエリアマネジメントの必要性



九州大学跡地箱崎キャンパスを活用した再開発と近代建築の利活用、
周辺地域との融合をになうエリアマネジメントと街づくりの実践的研究

③再活用のインキュベーションモデルとして スタートアップ拠点を東区に創設。

東区にスタートアップカフェを併設し、
中央区のTSUTAYA、西区の伊都キャンパスに続く第3の施設とする。

ベンチャー、ソーシャルビジネス、大学研究の実施運用の場、アートセンター、障害者大学、ゲストハウス、シェアハウス、留学生センター、アジアンマーケット、文化サロン、コミュニティ農園、エネルギー、…など



アジアのTech City=箱崎へ

「Tech City(テック・シティ)」とは、英国のハイテク・ハブを創設するという構想で、ベンチャー企業がビジネスをスタートしやすい環境を整え、2008年に15社だった企業数は現在では700社以上が集積。福岡市は、英国とクリエイティブ関連産業の相互協力するため覚書を交わしている。

④箱崎中学校移転可能性における 教育拠点として。

地元の要望により箱崎中学校の移転を福岡市が検討中。

ムハマド・ユヌス博士とグラミン銀行の理念をしめす記念施設として
教育の発展に貢献。

グラミン企業グループと教育連携をはかり、
教育人材の開発、高い理念教育を実現する。